

# 校長だより6号

発行月日：平成29年9月1日(金)  
うるま市立伊波小学校 石嶺 聡

## できない子どもをできるようにする

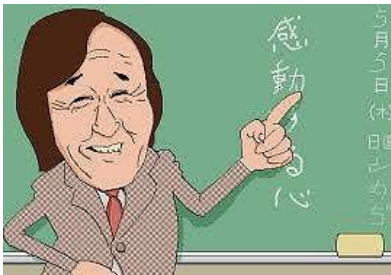


一生懸命教える教師

教師の仕事とは何か？一言でいえば、できない子どもをできるようにすることである。

できない子どもをできるようにするためには、まず子どもの心のあり方を変えることが必要となる。子どもが自分の将来(進路)を真剣に考えるようになれば、それをきっかけに自ずと勉強を始める。難しいところがあれば、自分なりに調べたり、友達に聞いたり、先生に質問するようになる。

できない子どもは、勉強ができないわけではない。勉強する理由が分からないのだ。それならば、子ども自身に勉強をする理由をみつけさせればいい。それを促すのが、教師の仕事となる。



子どもに感動させる教師

岩手県元高校教諭より

## 子どもの心に火をつける (part2)



命がけのやさしさ

子どもが、相談事があって職員室にやってきたとき、教師が「今は忙しいから後で」と断ることがある。職員会議などどうにもならないとき以外は、絶対に子どもを優先すべきだ。なぜなら、断られた子どもは、二度と相談に来なくなる場合がある。たぶんに、その子自身、心を閉ざしてしまうからだと思う。

それに対して、子どもから見ても多忙なのにも関わらず、すべてを優先して本気で相談に乗り、心配してくれる先生に出会ったとき、また、自分達のために一生懸命教えてくれる先生に出会ったとき、子ども達は、感動する。感動するということは、すなわち子どもの心に火をつけることにほかならない。



命がけのきびしさ

岩手県元高校教諭より